

## 令和 5 年度 東海国立大学機構 図書館プロジェクトチーム活動報告書

プロジェクトチーム名
図書館将来構想プロジェクトチーム
サブチーム
なし
メンバー
佐藤美穂(主査) 福永由美子(副主査) 小嶋悦子 峯岸ななえ 直江千寿子 山本利幸 竹田深佳 田中幸恵 菊池政志 松原隆実 大平司 鷲津彩乃 石川志愛里 福岡千絵(~2023/6)
アドバイザー
米谷昌代(岐阜大学図書館学術情報課長) 佐藤久美子(名古屋大学附属図書館情報管理課長) 櫻井待子(名古屋大学附属図書館情報サービス課長)
令和 5 年度の主な取組みと目標
<p>将来の「デジタル・ライブラリー」としてあるべき姿、実現に向けた計画や課題解決の方法について、以下を切り口に考え、図書館全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービス</li> <li>・ 「場」としての大学図書館の効果的な活用方法</li> <li>・ これからの図書館職員に必要とされる知識やスキル</li> <li>・ 大学図書館間の効果的な連携</li> </ul>
取り組みの概要
<p>1. 検討作業(2023/5~2024/1)</p> <p>以下のステップの順で、メンバー全員でアイデアを出し合い、将来の「デジタル・ライブラリー」としてあるべき姿を検討した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 2050 年の社会・利用者像</li> <li>2) 今後図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービス</li> <li>3) 「場」としての大学図書館の効果的な活用方法</li> <li>4) これからの図書館職員に必要とされる知識やスキル</li> <li>5) 大学図書館間の効果的な連携</li> </ol> <p>検討の結果、将来の図書館像が実現するテーマを、「学修・教育・研究効率を向上」、「多様なライフスタイルに寄り添ったサポート」、「地域社会に貢献」の 3 つに絞り、これらのテーマを実現するための図書館機能のアイデアを「デジタル・ライブラリー」と「場としての図書館(リアル・ライブラリー)」に分けて整理した。また、将来の図書館を支える図書館職員像や、複数大学間での人材連携や協力の在り方のアイデアについて検討し、整理した。整理した内容は、図書館将来構想プロジェクトチーム案として、「東海国立大学機構 図書館 2050 概要図(案)」、概要図(案)で描いた将来</p>

像を実現するための「東海国立大学機構 図書館 2050 ロードマップ(案)」にまとめた。

## 2. 意見交換会(2023/6/7、2023/6/13、2023/10/31)

1.の検討作業を進めることと並行して、科学技術・学術審議会・情報委員会・オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会の「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方(審議まとめ)」(令和5年1月25日)や、「審議まとめ」で提案された「デジタル・ライブラリー」に関する理解を深めるため、以下の意見交換会を行った。

- ・ 岐阜大学図書館長大藪先生(オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会 委員)との意見交換会(2023/6/7)
- ・ 名古屋大学情報基盤センター松原先生(「2030 デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会 委員)との意見交換会(2023/6/13)
- ・ 名古屋大学附属図書館研究開発室研究協力者・筑波大学名誉教授 逸村先生との意見交換会、逸村先生講演会「デジタル・ライブラリーについて考えよう！」第2回(2023/10/31)

## 3. 岐阜大学・名古屋大学図書館職員への検討結果の共有・意見反映(2024/2～2024/3)

1.の検討作業で作成した「東海国立大学機構 図書館 2050 概要図(案)」、「東海国立大学機構 図書館 2050 ロードマップ(案)」を岐阜大学図書館職員、名古屋大学附属図書館職員に共有し、意見募集と案への反映を行った。意見をいただいたものの、プロジェクトチーム内での議論が間に合わなかったために、反映できなかった改善点は以下の通りである。

- ・ 学生や教員、市民の立場や、多様なライフスタイルを持つ利用者が、何ができるようになるかを明確にする。
- ・ 将来像と現状との対比、そのための必要な行動とは何かを明確にする。
- ・ 図書館だけでは実現せず学内の複数部署と連携するべき事項を検討し明確にする。
- ・ 将来像における、岐阜大学・名古屋大学の連携の在り方を示す。

また、ロードマップ(案)内に挙げた取り組み事項については以下の意見があった。

- ・ 個々の取り組みは、一時的なプロジェクトチームではなく、継続して担当する部署を決める必要がある。

## 今後の展望

今年度は、2050年の図書館の将来像を描くことを中心に検討を行ったが、将来像としての方向性、図書館の現状との比較、必要な行動について、議論や整理が不十分

であった。今後は、現在の図書館の状況業務分析、利用分析、利用者ニーズ調査、国内外の大学図書館の先進的な取り組みについて情報収集を行い、将来像についての更なる検討、現状と将来像のギャップを埋めるための必要な行動を整理する必要があると考える。